

今週（8月14日から8月18日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が14日は350兆円台後半、年金定時払いが行われた15日以降は360兆円台半ばの高水準で推移した。無担保コールO/Nは、14日・15日が7月積み期間の最終調節となるためレートは上昇し、概ね▲0.04～▲0.015%のレンジで取引された。16日からは新しい積み期間に入ったことで落ち着いた展開となり、概ね▲0.07～▲0.035%のレンジで取引された。これを受けて、無担保コールO/N加重平均レートは14日・15日は▲0.02%台と上昇していたものの、16日以降は▲0.04%台後半へと低下した。ターム物に関しては、1W～1M程度で▲0.045～0%の出合いが中心となった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、17日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は1,451億円（期落ち分1,310億円）で札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、14日のT/Nが積み最終日にあたり、調整のための資金調達が集まった。レートはやや上昇し、▲0.07～▲0.045%の出合いだった。その後、新積み期間となる8/16受渡以降の取引は、一部の大口先が運用サイドに回ってレートが低下し、▲0.10～▲0.09%程度の出合いとなった。8/21受渡は短国2本と5年債の発行が重なったが、調達意欲は盛り上がり、レートは低位横ばいでの取引だった。

SC取引は通常の銘柄で概ね▲0.12～▲0.11%程度の出合いだった。個別銘柄では、入札のあった5年債の132回がタイトな気配だったが、リオープン発行以後は緩んだ。その他、5年の131回、10年の336回、337回、340回、341回、346回等が強めのレートで取引された。

●短国市場

今週の短国市場は、2回の短国入札が実施されたものの、好需給を反映して順調に消化され、全般的に堅調な相場展開となった。

新発の入札は、16日に1Y物、17日に3M物の入札が実施された。1Y物は、WI取引において、▲0.126%から▲0.135%へと買い進まれる中、平均落札利回▲0.1281%、按分落札利回▲0.1251%と、WI取引を反映した強めの結果になった。その後は▲0.128%で出合い、さらに17日には▲0.135%まで買い進められる場面も見られた。3M物は、WI取引で▲0.126～▲0.125%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1275%、按分落札利回▲0.1243%と、堅調な結果となった。セカンダリーは▲0.137%まで買い進まれる展開となった。

18日には、短国買入オペが事前予想通りの7,500億円でオファーされ、平均利回較差▲0.002%、按分利回較差▲0.006%と堅調なマーケットを反映した結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週前半は夏季休暇の事業法人が多かったこともあり、14日の入札案件は1件、15日は3件と、閑散な地合いが続いた。週半ばからは、石油・石炭、小売、ノンバンク等複数業態で比較的まとまった額の調達が行われ、償還総額2,800億円程度に対して、発行総額3,000億円程度と発行超のマーケットとなった。発行レートは先週に引続き、全体的に0%近辺で決着する銘柄が多かったものの、9月末越物や発行量の少ない物でレート低下余地を探る動きが見られた。

17日には、CP等買入オペが3,000億円でオファーされた。直近2回のオペは応札額が5,000億円～7,000億円台にとどまり、1兆2,000億円程度の応札があった6～7月に比べ、業者の売却姿勢の後退がみられており、レートも低下基調にあった。今回のオペはどの程度までレートが低下するか注目されていた中、結果は応札額が5,133億円と低めの水準が継続、平均落札レートは▲0.014%、按分落札レートは▲0.035%と、前回比（平均▲0.001%、按分▲0.005%）で平均、按分ともに大きく低下した。応札に対する消極姿勢に加え、夏季休暇を挟んでおり、前回のオペから発行・償還が少なく、対象銘柄が増えなかったことが影響したと考えられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
8/14（月）	19,537.10	0.050	109.37	△ 0.028	△ 0.057	3,576,300
8/15（火）	19,753.31	0.045	110.18	△ 0.026	△ 0.095	3,641,600
8/16（水）	19,729.28	0.035	110.66	△ 0.047	△ 0.096	3,642,300
8/17（木）	19,702.63	0.040	110.00	△ 0.049	△ 0.100	3,642,900
8/18（金）	19,470.41	0.035	109.40	△ 0.052	△ 0.098	3,649,900

来週（8月21日から8月25日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
8/21 (月)				
8/22 (火)		20Y 10,000億円 8/24発行		
8/23 (水)		交付税借入 10,500億円 9/4借入		7月の米新築一戸建て販売件数
8/24 (木)	6月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	TB3M 44,000億円 8/28発行	流動性供給 5,500億円 8/28発行	7月の米中古住宅販売 4-6月期の英GDP改定値
8/25 (金)	8月都区部・7月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 7月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)			7月の米耐久財新規受注

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/21 (月)	800	▲ 48,200	▲ 47,400	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 1,300 ▲ 100 800	1,500	900	▲ 46,500	TB3M発行▲44000償還41700 TB1Y発行▲23000償還4300 5Y発行▲22000 エネルギー借入▲7000期日6000
8/22 (火)	0	1,000	1,000	国債買入 短国買入 CP買入		10,500 7,500 3,000	21,000	22,000	
8/23 (水)	0	2,000	2,000				0	2,000	交付税借入▲10500期日10500
8/24 (木)	▲ 1,000	▲ 13,000	▲ 14,000				0	▲ 14,000	20Y発行▲10000
8/25 (金)	▲ 1,000	1,000	0	被災地支援	▲ 900		▲ 900	▲ 900	国有林野借入▲1000期日900
週間合計	▲ 1,200	▲ 57,200	▲ 58,400	—	▲ 1,500	22,500	21,000	▲ 37,400	

8/21は日銀予想、8/22以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、国債の発行要因による大幅揚げ日があるものの、積み期間の前半ということもあり、落ち着いた展開が予想される。

レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化が無ければ引き続きレートは低位で推移すると見られるが、短国の需給や海外勢の動向によってはレートが動く可能性も考えられる。

短国市場は、24日に3M物の入札が実施予定となっている。足元の需給環境は良好であるものの、引続き地政学リスク等不透明な状況が続いており、方向性は流動的となることが予想される。

CP市場は、夏季休暇明けとなり、発行量の回復が期待される。発行レートは、17日のCPオペにおけるレート低下を受け、オペ見合いの買いが積極化し、やや低下することが見込まれる。

主要なイベントとしては、24日の4-6月期の英国GDP改定値、25日の7月の全国CPIなどが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡りする書面や目論見書をよくお読みください。